

国立大学法人  
福井大学

FINANCIAL REPORT 2012

創造力、実践力。

# 2012財務レポート

UNIVERSITY OF FUKUI

福井大学は、社会から頼りにされる“元気な大学”の実現を目指します。





福井大学の資産・負債・純資産の状況	1
福井大学の費用・収益の状況	3
福井大学のキャッシュ・フロー計算書	5
福井大学の業務実施コスト計算書	6
福井大学の財務指標による分析	7
その他の財務情報	8
平成24事業年度の各分野における主な成果	9



文京キャンパス



松岡キャンパス



敦賀キャンパス



附属病院新病棟完成イメージ  
平成26年9月新病棟OPEN

## 福井大学の資産・負債・純資産の状況

貸借対照表は、決算日（毎年3月31日）における、国立大学法人の資産、負債及び純資産がどのような状態かを表示し、明らかにするものです。前年度と比較すると、資産は前年度比40億4千万円の増、負債が37億5千万円の増、純資産については2億9千万円の増となっています。

## 貸借対照表の概要

（平成25年3月31日）

（単位：百万円）

資 産			
	23年度	24年度	増減
土地	42,278	42,278	0
① 建物等（建設中含む）	17,925	20,649	2,724
② 工具器具備品	7,678	6,626	▲1,052
図書	2,498	2,534	36
その他固定資産	180	161	▲19
③ 現金及び預金	8,861	11,068	2,207
未収入金	2,579	2,642	63
その他流動資産	185	269	84
資産合計	82,184	86,227	4,044

負 債			
	23年度	24年度	増減
① 資産見返負債	6,741	7,227	486
② 借入金	6,377	7,400	1,023
リース債務	1,760	1,674	▲86
③ 運営費交付金債務	672	2,187	1,515
寄附金債務	3,461	3,726	265
未払金	3,507	3,959	452
その他	850	947	97
負債合計	23,368	27,120	3,752

## 純 資 産

	23年度	24年度	増減
資本金	50,666	50,666	0
資本剰余金	1,608	1,901	293
利益剰余金	6,542	6,541	▲1
純資産合計	58,816	59,108	292

主な増減内容は以下のとおりです。

## 資産の部

## ①建物等：20,649百万円（2,724百万円増加）

病棟新営による建設仮勘定の増  
医学部講義棟改修等による増

## ②工具器具備品：6,626百万円（1,052百万円減少）

減価償却累計額増に伴う減

## ③現金及び預金：11,068百万円（2,207百万円増加）

運営費交付金債務及び寄附金債務増に伴う増

## 負債の部

## ①資産見返負債：7,227百万円（486百万円増加）

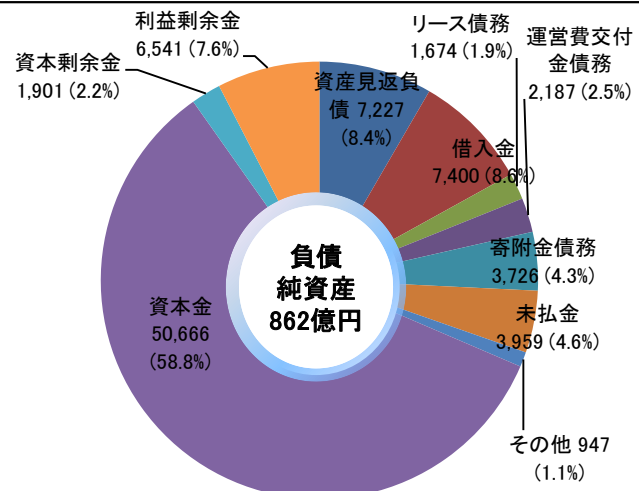
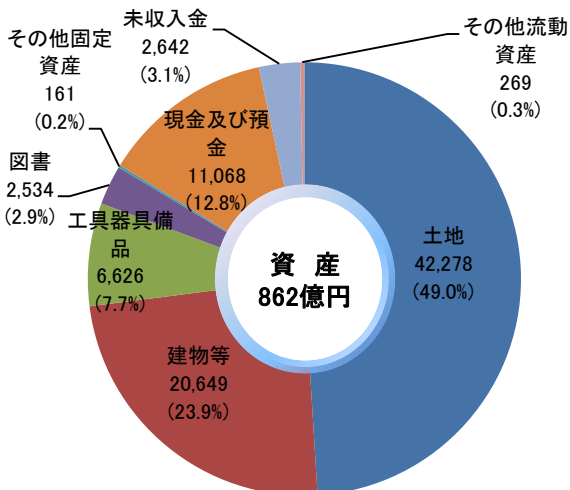
病棟及び工学系実験棟の新営による建設仮勘定見返施設費の増

## ②借入金：7,400百万円（1,023百万円増加）

附属病院新病棟建設のための増

## ③運営費交付金債務：2,187百万円（1,515百万円増加）

業務達成基準適用事業及び復興関連事業に伴う増







## 福井大学の費用・収益の状況

損益計算書は、一事業年度(4月1日～翌年3月31日)における国立大学法人の費用と収益を対応させて、その運営状況を表示し、明らかにするものです。前年度と比較すると、経常費用は前年度比2億4千万円の減、経常収益は8億9千万円の減、臨時損失は4千万円の減、臨時利益は5百万円の増となっています。

### 損益計算書の概要 (平成24年4月1日～平成25年3月31日) (単位:百万円)

経常費用			
	23年度	24年度	増減
① 教育経費	1,227	1,446	219
研究経費	1,608	1,670	62
診療経費	8,464	8,485	21
② 教育研究支援経費	449	394	▲55
③ 受託研究・事業費等	1,251	1,018	▲233
④ 人件費	14,650	14,385	▲265
一般管理費	581	611	30
財務費用	178	164	▲14
<b>経常費用合計</b>	<b>28,408</b>	<b>28,173</b>	<b>▲235</b>
臨時損失			
	23年度	24年度	増減
<b>臨時損失合計</b>	<b>62</b>	<b>19</b>	<b>▲43</b>

経常収益			
	23年度	24年度	増減
① 運営費交付金収益	9,187	7,599	▲1,588
学生納付金	2,830	2,861	31
② 附属病院収益	13,833	14,432	599
③ 受託研究費等収益	1,263	1,021	▲242
寄附金収益	403	329	▲74
資産見返負債戻入	870	939	69
その他	685	1,001	316
<b>経常収益合計</b>	<b>29,071</b>	<b>28,182</b>	<b>▲889</b>
臨時利益			
	23年度	24年度	増減
<b>臨時利益合計</b>	<b>4</b>	<b>9</b>	<b>5</b>
当期総利益(総損失)			
	23年度	24年度	増減
<b>当期総利益(総損失)合計</b>	<b>604</b>	<b>▲1</b>	<b>▲605</b>

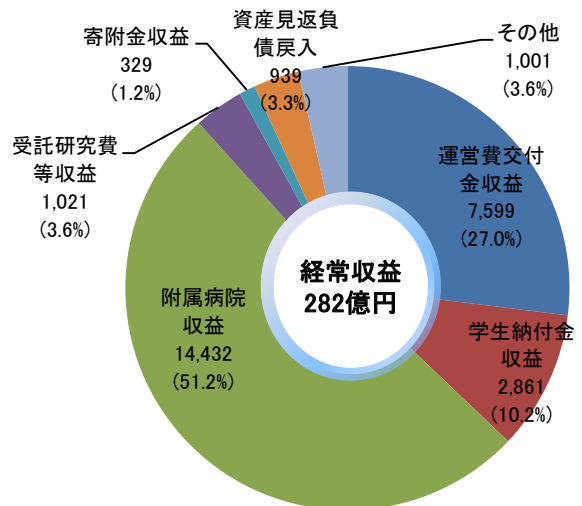
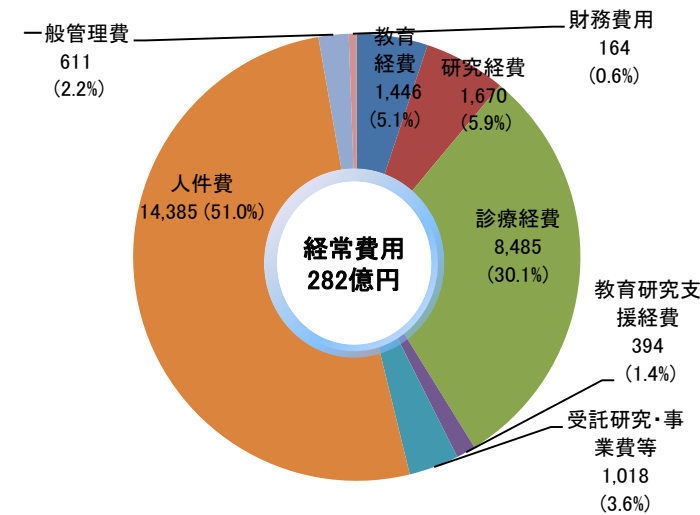
主な増減内容は以下のとおりです。

#### 経常費用

- ①教育経費：1,446百万円 (219百万円増加)  
医学部講義棟・学生支援センター再整備に伴う増授業料免除枠拡大による増
- ②受託研究・事業費等：1,018百万円 (233百万円減少)  
受入額減少に伴う執行減
- ③人件費：14,385百万円 (265百万円減少)  
給与減額支給措置に伴う減、退職手当の減

#### 経常収益

- ①運営費交付金収益：7,599百万円 (1,588百万円減少)  
給与減額支給措置による当期交付額の減  
業務達成基準適用による繰越残(交付金債務)の増
- ②附属病院収益：14,432百万円 (599百万円増加)  
入院患者数の増加、病床稼働率向上及び新施設基準の取得等に伴う増
- ③受託研究費等収益：1,021百万円 (242百万円減少)  
受入額減少による執行減に伴う減



## 損益計算書の詳細 (平成24年4月1日～25年3月31日) (単位:百万円)

経常費用①		経常収益	
業務費	27,398	運営費交付金収益⑥	7,599
教育経費	1,446	授業料収益⑦	2,395
研究経費	1,670	入学金収益	378
診療経費	8,485	検定料収益	89
教育研究支援経費	394	施設費収益	143
受託研究費	927	補助金等収益	465
受託事業費	91	附属病院収益	14,432
役員人件費	85	受託研究等収益	932
教員人件費	7,194	受託事業等収益	88
常勤教員給与	5,715	寄附金収益	329
非常勤教員給与②	1,479	講習料収益	40
職員人件費	7,106	資産見返負債戻入	939
常勤職員給与	6,032	財務収益	6
非常勤職員給与③	1,074	雑益⑧	347
一般管理費④	611	経常収益合計	28,182
財務費用⑤	164	経常利益	8
経常費用合計	28,173		

【教育研究支援経費】  
附属図書館、総合情報基盤センター等。法人全体の教育及び研究の双方を支援するために設置されている施設の運営経費です。

【人件費】  
経常費用に対する人件費の割合は51.1%を占めています(受託研究費、受託事業費、科学研究費補助金等で雇用される者は除く)。

【資産見返負債戻入】  
運営費交付金・授業料・寄付金等の財源で取得した固定資産の減価償却に伴って収益計上し、期中の損益を均衡させる処理で、国立大学法人会計基準特有の会計処理です。

【雑益】  
研究関連収入、財産貸付収入などが含まれています。

臨時損失		臨時利益	
固定資産除却損	6	固定資産売却益	0
前期損益修正損	5	資産見返運営費交付金等戻入	1
その他	8	資産見返補助金等戻入	0
臨時損失合計	19	資産見返寄附金戻入	4
		資産見返物品受贈額戻入	1
当期未処理損失	▲1	前期損益修正益	3
目的積立金取崩額	0	償却債権取立益	0
当期総損失	▲1	臨時利益合計	9

## 経常費用

- ① 経常費用の表示科目は、消耗品等の形態別分類による表示ではなく、教育・研究等の目的別分類に応じて表示しています。
- ② 教員人件費の非常勤とは、非常勤講師、TA、RA、医員、医員研修医などです。
- ③ 職員人件費の非常勤とは、事務補佐員、技術補佐員(技師・看護師)などです。
- ④ 大学全体の管理運営を行うために要する経費です。
- ⑤ 附属病院に係る借入金利息が主なものになります。

## 経常収益

- ⑥ 国より運営費交付金を受領したときは、運営費交付金債務として負債計上し、行うべき業務を実施すると、その相当額を収益化の基準に従って収益化する仕組みです。
- ⑦ 当該年度に係る授業料を学生から受領したときは、授業料債務として負債計上し、教育を実施することにより、その相当額を収益化する仕組みです。
- ⑧ 雑益の主な内訳は、財産貸付料収入82百万円、科学研究費補助金等の間接経費140百万円などです。

## 福井大学のキャッシュ・フロー計算書

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間におけるキャッシュ・フローの状況を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3つの区分で表示するものであり、貸借対照表及び損益計算書と同様に、本学の活動全体を対象とする重要な情報を提供するものです。

(単位:百万円)

<b>I 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,205</b>
原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲10,040
人件費支出	▲14,652
その他の業務支出	▲614
運営費交付金収入	9,481
授業料収入	2,428
入学金収入	375
検定料収入	89
附属病院収入	14,458
受託研究等収入	983
受託事業等収入	84
寄附金収入	650
補助金等収入	588
財産貸付料等収入	83
科学研究費補助金等の増減	25
その他収入	267
小計	4,205
国庫納付金の支払額	0
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>▲3,835</b>
有形固定資産の取得による支出	▲4,045
無形固定資産の取得による支出	▲14
有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入	0
定期預金の払出・預入による収入支出	▲1,460
施設費による収入	1,677
国立大学財務・経営センターへの納付による支出	—
資産除去債務の履行による支出	0
敷金・保証金の差入れによる支出	—
小計	▲3,841
利息及び配当金の受取額	6
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>377</b>
長期借入金による収入	1,748
国立大学財務・経営センター債務負担金返済	▲408
長期借入金の返済による支出	▲317
リース債務の返済による支出	▲479
小計	544
利息の支払額	▲167
<b>IV 資金に係る換算差額</b>	<b>—</b>
<b>V 資金増減額</b>	<b>747</b>
<b>VI 資金期首残高</b>	<b>5,510</b>
<b>VII 資金期末残高</b>	<b>6,257</b>

## 《業務活動》

教育・研究・診療など業務の実施に伴う資金の出入りを表している。

業務活動による  
資金調達等  
+42億円

## 《投資活動》

固定資産取得や売却、余裕金の運用など投資活動に伴う資金の出入りを表している。

投資活動による  
資金利用等  
▲38億円

## 《財務活動》

借入金による資金の調達や返済など財務活動に伴う資金の出入りを表している。

財務活動による  
資金調達等  
+4億円

平成24年度キャッシュ増加額  
+7億円



## 福井大学の業務実施コスト計算書

国立大学法人等業務実施コスト計算書とは、国立大学法人等の業務運営に関して、国民の負担に帰せられるコストを示すものです。平成24年度本学の業務運営上、納税者たる国民の負担していただいているコストは9,686百万円(国民1人当たり約80円)です。

(単位:百万円)

I 業務費用	8,924
(1) 損益計算書上の費用	28,192
業務費	27,398
一般管理費	611
財務費用	164
臨時損失	19
(2) (控除) 自己収入等	▲19,268
授業料収益	▲2,395
入学料収益	▲378
検定料収益	▲89
附属病院収益	▲14,432
受託研究等収益	▲932
受託事業等収益	▲88
寄附金収益	▲329
その他収入	▲40
資産見返運営費交付金等戻入(授業料)	▲201
資産見返寄附金等戻入	▲160
建設仮勘定見返運営費交付金戻入(授業料)	▲6
財務収益	▲6
雑益	▲207
臨時利益	▲6
II 損益外減価償却相当額	829
III 損益外減損損失相当額	0
IV 損益外利息費用相当額	0
V 損益外除売却差額相当額	3
VI 引当外賞与増加見積額	▲47
VII 引当外退職給付増加見積額	▲437
VIII 機会費用	414
国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による	
貸借取引の機会費用	122
政府出資の機会費用	292
無利子又は通常より有利な条件による融資取引の機会費用	0
IX (控除) 国庫納付額	0
X 国立大学法人等業務実施コスト	9,686

【国からの財源で賄われているコスト】  
損益計算書における費用から授業料収益や病院収益等の自己収入を差し引いたもの。

(1) 損益計算書上の費用: 282億円

(2) (控除) 自己収入等: ▲193億円

業務費用: 89億円

【損益計算書に計上されていないコスト】  
国から出資された資産等の減価償却、除却損及び一部の退職手当など、制度上費用に反映されていない負担相当額。  
損益計算書未計上コスト: 3億円

【免除・軽減されているコスト】  
国等から無償借受している財産や国が法人へ出資している資本等を他の投資へ振り替えたら得られたであろう相当額を利益喪失の費用として認識。

4億円

平成24年度業務実施コスト  
97億円(国民1人当たり約80円)

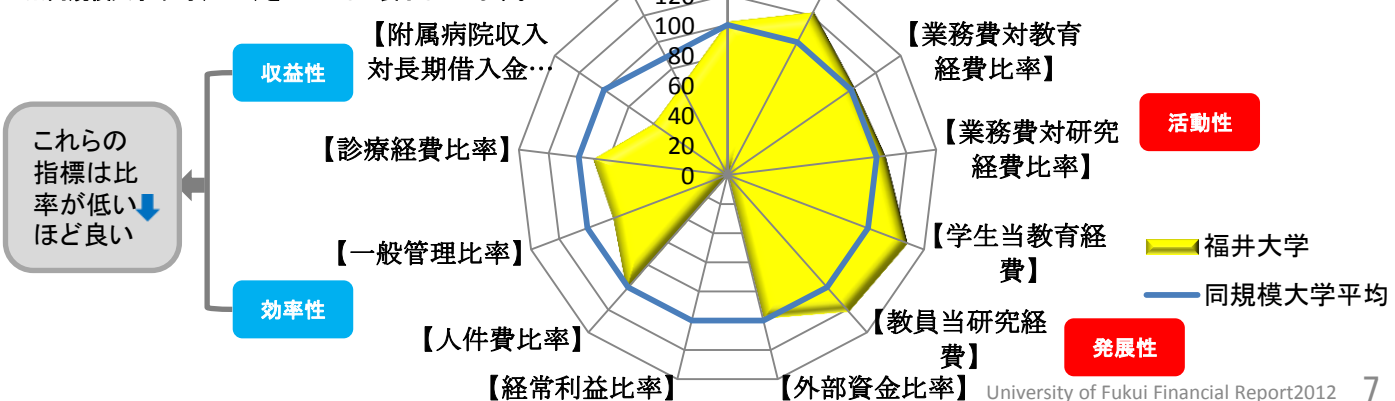
# 福井大学の財務指標による分析

- ◆ 各財務指標の↑を付した指標は比率が高いほど、↓を付した指標は比率が低いほど良好な状況を示しています。
- ◆ 同規模大学とは、医学系学部その他の学部で構成され、学生収容定員1万人未満の25国立大学法人です。

財務指標	算式 【指標の意味】	24年度	23年度	増減	同規模大学 平均(H24)
<b>健全性</b> 流動比率 ↑	流動資産÷流動負債 【短期的な安全性を判断】	116.8%	121.1%	▲4.3%	114.2%
自己資本比率 ↑	自己資本(純資産)÷(負債+純資産) 【長期的な安全性を判断】	68.5%	71.6%	▲3.1%	55.9%
<b>活動性</b> 業務費対教育経費比率 ↑	教育経費÷業務費 【教育の活動性を判断】	5.3%	4.4%	+0.9%	5.2%
業務費対研究経費比率 ↑	研究経費÷業務費 【研究の活動性を判断】	6.1%	5.8%	+0.3%	5.8%
学生当教育経費 ↑	教育経費÷学生数 【教育活動の活発性を判断】	285千円	237千円	+48千円	224千円
教員当研究経費 ↑	研究経費÷教員数 【研究活動の活発性を判断】	2,760千円	2,653千円	+107千円	2,283千円
<b>発展性</b> 外部資金比率 ↑	(受託研究等収益+受託事業等収益+寄付金収益)÷経常収益 【外部資金等による活動性を判断】	4.8%	5.7%	▲0.9%	4.9%
経常利益比率 ↑	経常利益÷経常収益 【事業の収益性を判断】	0.0%	2.3%	▲2.3%	1.2%
<b>効率性</b> 人件費比率 ↓	人件費÷業務費 【人件費の経費負担状況を判断】	52.5%	52.7%	▲0.2%	51.6%
一般管理費比率 ↓	一般管理費÷業務費 【管理運営の効率性等を判断】	2.2%	2.1%	+0.1%	2.7%
<b>収益性</b> 診療経費比率 ↓	診療経費÷附属病院収益 【附属病院の収益性を判断】	58.8%	61.2%	▲2.4%	65.1%
長期借入金返済比率 ↓	(長期借入金返済+財務経営センター納付金)÷附属病院収入 【附属病院の健全性を判断】	5.0%	5.1%	▲0.1%	8.3%

## 財務分析レーダーチャート

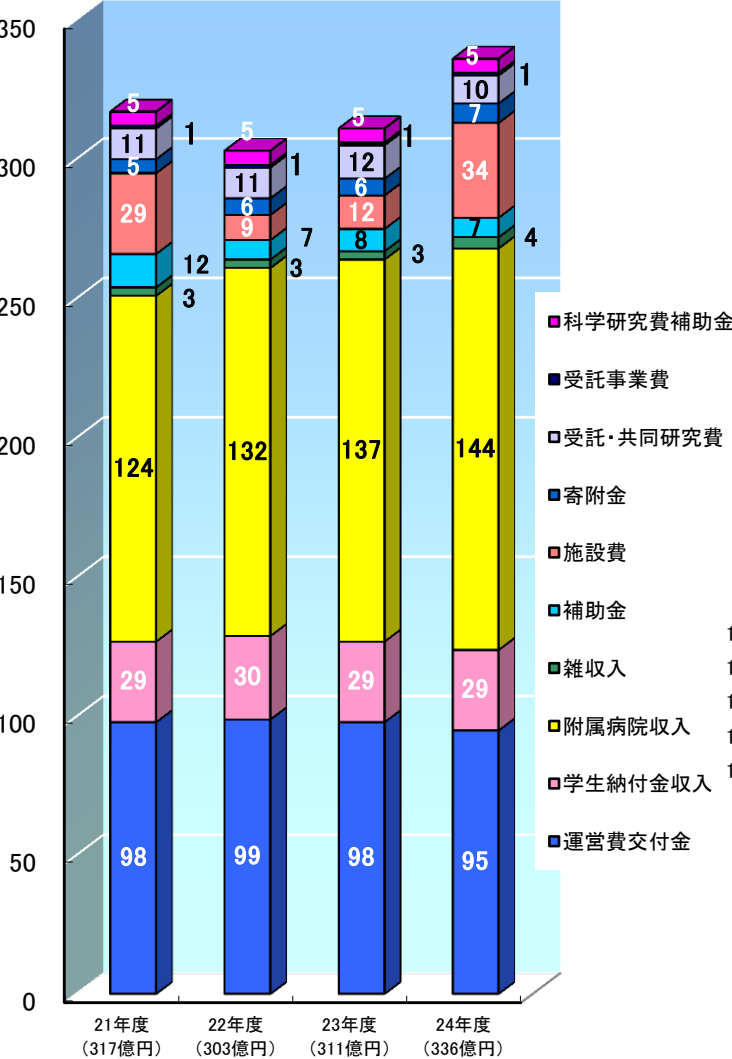
※同規模大学平均(H24)を100として表示しています。



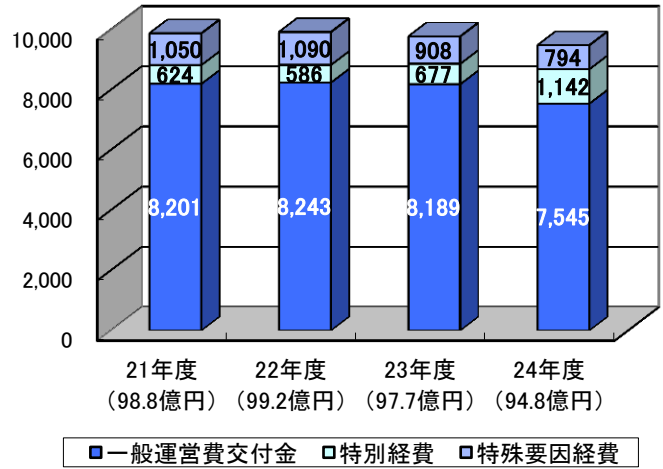
これらの指標は比率が低いほど良い

その他の財務情報(経年推移)

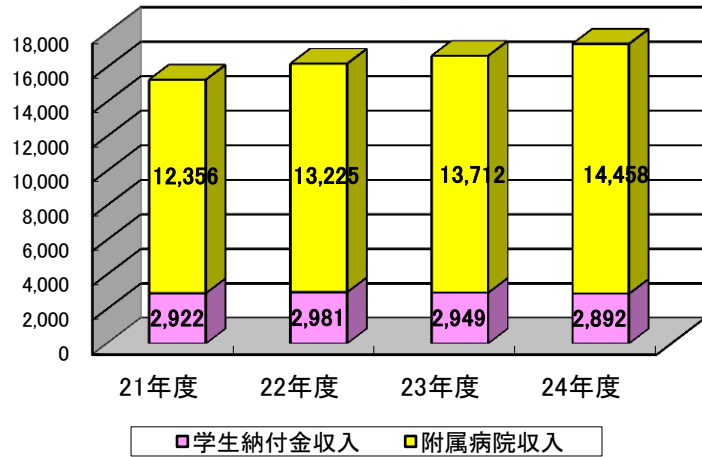
●大学運営資金(科研費、施設費等外部資金含む)  
(単位:億円)



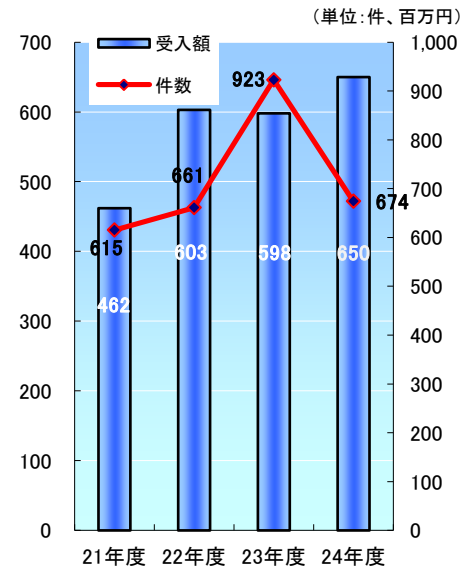
●運営費交付金収入 (単位:百万円)



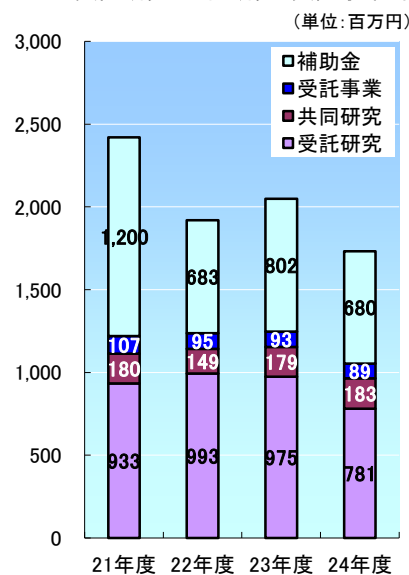
●自己収入(学生納付金・附属病院収入)  
(単位:百万円)



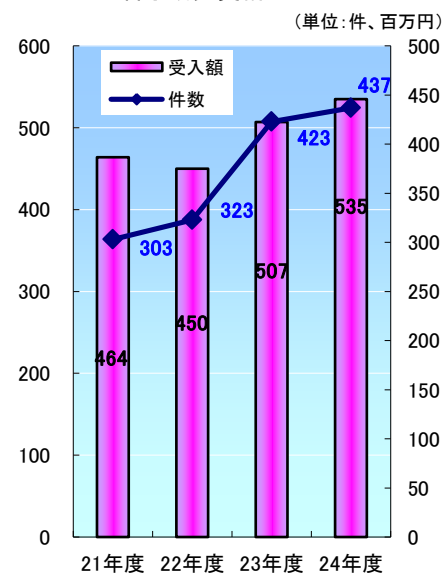
●寄附金



●受託研究・共同研究・受託事業・補助金



●科学研究費補助金



平成24事業年度の各分野における主な成果①

 教育分野

**福井大学モデルによる教職専門性開発と国際共同研究ネットワークの形成**

[事業期間:H22~H24年度(文部科学省特別経費) H24決算額:11,807千円]

21世紀の知識基盤社会、グローバル社会に必要な力を児童・生徒が獲得するには、高い専門性と実践力を兼ね備えた教師の育成が必要不可欠である。

本学教職大学院は、学校現場で行う実践と省察を中心とした実践的教師教育で国内外の高い評価を得ている。これを発展させ、また、国際的通用性を保つため、平成24年度までに日米中韓、モンゴル、北欧諸国等の教育機関と交流・共同研究を進め、本学を中心とした国際共同研究ネットワークの基盤を築いた。今後、教職専門性の国際的基準を確立し、その基準を満たす教師教育を提供することで、将来の日本の成長を担う、グローバル社会で通用する人材育成に貢献していく。

東京で開催したラウンドテーブル(H25.1)



栃木県教育委員会と連携した授業研究(H24夏期集中)



上海師範大学訪問(H25.3)

 研究分野

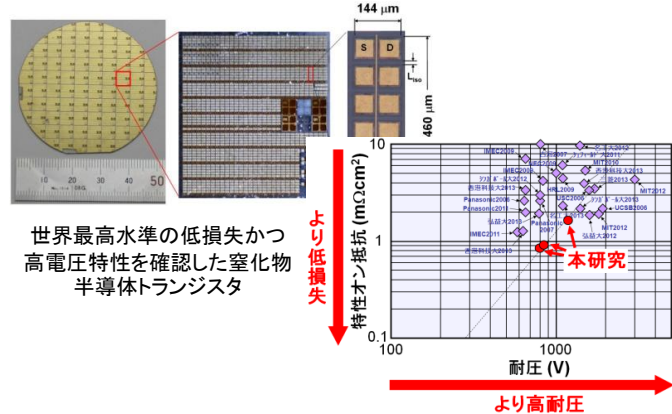
**低炭素革命を推進する高効率太陽光発電システムの研究開発**


[事業期間:H22~H24年度(文部科学省特別経費) H24決算額:16,150千円]

電気エネルギーの安定確保、効率的利用は世界的課題であり、再生可能エネルギーの発電能力向上や、電気の伝送・変換損失の低減が求められている。

本学が世界最高レベルの品質で生成可能な窒化物半導体は、太陽光発電効率50%以上の実現、低損失・高出力な電力変換トランジスタの実現等の可能性を持ち、本学がこれらの実用性を世界で初めて実証している。

平成24年度には、高品質な窒化物半導体の安定的な製造、電圧変動に対する安定性の向上、高電圧かつ低損失な特性向上等に成功した。さらに研究を進展させることで、小型高効率太陽光発電システムや、冷却不要な高出力の次世代電気自動車などへの展開・応用が期待される。



 医療分野

**PET高度医療開発システム**

[事業期間:H22~H24年度(文部科学省特別経費) H24決算額:37,400千円]

分子イメージング技術の一つであるPETは、がん、認知症、再生医療等の分野で臨床展開が期待されているが、院内製造された放射性薬剤を扱うため、臨床研究において厳格な管理体制が必要である。

本事業では、放射性薬剤製造室を整備するとともに専任コーディネーター(CRC)を配置するなど臨床研究を実施可能なGMP準拠供給体制を構築した。

平成24年度には、日本核医学会制定のPET薬剤製造ガイドラインに従った運用を開始し、同学会のPET薬剤製造施設の認証を日本で初めて取得するなど、厳格な管理体制に基づく基礎から臨床まで一貫した研究体制を完成させた。また、米国核医学会2011総会で腫瘍臨床診断部門最優秀賞を受賞した「子宮筋腫の良悪性診断」の高度医療申請を予定する他、公募により先進医療シーズを14件採択して研究を推進しており、今後も研究成果の迅速な高度医療への展開や、本事業で育成した医師等専門家集団による最先端の医療提供に努めていく。

放射性薬剤製造室



日本初PET薬剤製造施設認証



## 平成24事業年度の各分野における主な成果②

 地域貢献分野

## 産業現場に即応する実践道場の構築

[事業期間: H22～H24年度(文部科学省特別経費)]

H24決算額: 52,275千円]

産業界は、産業現場に即応し、ものづくりの基盤技術や次世代産業を支える技術開発を担う高度人材を求めている。

産学連携や実践型教育に強みを持つ本学は、平成22年度から、地域企業の技術者・経営者等が指導する「道場」を拠点に、博士後期課程の学生や社会人が地域産業界の課題に取り組む実践型プログラムを開始した。本事業は、課題解決・知財・マネジメント力を備え、産業現場で研究開発をリードする自律型産業人材の養成を目的としている。

平成24年度には、受講生が技術移転の競争資金獲得(JSTのA-STEP探索タイプ)や、ビジネスプランコンテスト優勝等の成果を挙げた。本事業には年間20名を超える学外受講者が参加しており、産業界からの評価と期待も高い。今後も本事業をさらに推進し、高度産業人材養成による地域産業活性化のモデルに発展することが期待される。

受講生が一般の方に研究を紹介  
(H24.10 福井大学きてみてフェア)



受講生がビジネスプラン  
コンテストで優勝(H25.2)

 施設整備

## 医学部講義棟改修

[事業期間: H24年度(文部科学省施設整備費補助金+大学自己資金)]

H24決算額: 558,600千円]

松岡キャンパスでは、医学科の定員増や、最新の医学・医療教育への対応が必要なことから、老朽化の激しい講義棟の全面改修、増築を実施した。

この改修では、講義棟を修学拠点「アクティブラーニング・ゾーン」の中核建物と位置づけ、革新的医学教育の展開に資する「統合的先進イメージングシステム」を駆使した最先端画像医学教育環境を整備した。また、「21世紀型医療人」に必要なコミュニケーション能力、医療安全実践能力、高い診断能力等の養成や、医学英語能力養成に資する「TBL-Eクリニック」なども備え、本邦医学部の見本となる教育環境を実現したといえる。更に、自主学習用の「マルチラーニングスペース」やアメニティー面の改善により、充実した大学生活を学生に提供する。これらにより、高齢化や過疎化に伴って深刻化する地域医療への対応等、現代の医療課題に対応できる優れた医療人を養成し、地域、社会に貢献していくこととなる。

## 学生支援センター改修等

[事業期間: H23～24年度(文部科学省施設整備費補助金(H23年度補正)+大学自己資金+寄附金)]

決算総額340,350千円]

文京キャンパスでは、学生向け窓口のある学生支援センターや、生協が運営する食堂等が入る建物の耐震性能が低く、老朽化も激しいことから、学生の安全・安心確保のために全面改修を実施した。

この改修では、バリアフリー対応はもとより、学生のプライバシーに配慮した個別面談室等の設置や、学生のスムーズな動線確保のために学生総合相談室の移設等を行った。また、この改修にあわせて、食堂の増床、既存建物の機能改修による多目的スペースの確保、建物間の屋根の設置等、学生支援センターとその周辺のアメニティーを改善し、学生の学習支援、生活支援を充実させている。



学生支援センターと生協購買  
2階を結ぶ通路を新設  
(右手は学生総合相談室)



学生支援センター



食堂増床スペース

13



講義棟玄関



マルチラーニングスペース

創造力、実践力。



国立大学法人

福井大学

UNIVERSITY OF FUKUI



財務レポートをお読みいただきありがとうございました。  
なお、財務レポート等決算に関連する資料は、本学ホームページで公開しております。

<http://www.u-fukui.ac.jp/>

今後もみなさまに財務情報をわかりやすく説明するよう努めてまいります。  
財務レポートに関するみなさまからのご意見を賜りますようお願いいたします。



国立大学法人福井大学 2012財務レポート

発行: 福井大学財務部財務課決算係

〒910-8507 福井市文京3-9-1

TEL:0776-27-9786 FAX:0776-27-8870

<mailto:zzkessan-k@ad.u-fukui.ac.jp>

<http://www.u-fukui.ac.jp/>